

令和5年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅱ 【 社会性を養う教育内容の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
<p>○当校ではコミュニケーション能力が低い学生や、提出物の提出期限が守れないなど社会人として必要な資質が欠けている学生が散見される。</p> <p>○当校は、地域で指導的な役割を果たす優れた農業経営士や農業法人経営者等とは、派遣実習等を通じて交流がある。また、当校卒業生の中には地域で活躍している者がおり、社会人として必要な資質を学ぶうえで協力を得られやすい環境にある。</p>	<p>○学生のコミュニケーション能力を向上させるとともに、社会人として必要な資質を身に付けさせる。</p>	<p>社会人としての資質向上</p> <p>コミュニケーション能力の向上した学生の割合 100%</p>
<p>○自立や協調の精神を養う機会である学生活動に関して、寮生活では、昨年度まではコロナ禍対策で一人部屋だった寮が今年度から二人部屋となり、より多くの学生が寮生活を送るようになった。また、各学生活動については、コロナ禍以前に近い内容・規模で実施できるようになった。しかし、学生は、コロナ禍以前の規模・内容での学生活動経験がなく、自主的な活動を十分に行えないことが懸念される。</p>	<p>○学生同士の交流を促し、学生が各活動を自主的に運営できるようにする。</p>	<p>学生活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員会活動回数 (農業部・園芸部各々年 12 回) 環境美化活動回数 (農業部・園芸部各々年 4 回) 学生自治会活動回数 (農業部・園芸部各々年 4 回)

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

(1) 社会人としての資質向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準	
コミュニケーション能力が向上した学生の割合 100%	B	コミュニケーション能力の向上について、教務職員に実施したアンケート調査結果では、80%の学生に向上がみられたとの回答が得られ、講義、授業の効果が確認できた。また、アンケートを実施することで、学生のコミュニケーション能力に対する教務職員の意識も向上した。販売実習では学生からはコミュニケーション能力の重要性を意識したという意見があり、販売実習後、積極性の向上や説明方法に工夫が感じられる学生もいて、コミュニケーション能力の向上に成果が見られた。	さまざまな講座を通じて、コミュニケーション能力が向上している。 直売所での接客など他者とのかかわる経験を積み重ねていくことで、積極性が養われるため、そのような機会を増やしていくとよい。 達成度の評価基準と照らし、B評価は適当である。	A	100%達成
				B	80～99%の達成
				C	60～79%の達成
				D	40～59%の達成
				E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】農業者による特別講義の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人としての資質を身に付けるため、農業経営士、農業法人経営者、女性農業士、青年農業士等による講義を実施する。 農業部3回、園芸部1回 【R4実績：農業部3回、園芸部1回】 	<p>ア 農業者による特別講義の実践</p> <p>【取組実績】 農業経営士等から農業技術や経営意識に関するもののほか、社会に出てからの心構え等として、コミュニケーション能力の必要性や好奇心を持つこと、自分の行動に対して責任を持つこと、といった助言を得た。 (ア) 雇用就農促進講座 ・農業部：5/15（2年生）、12/4（1年生） ・園芸部：12/14（1、2年生） (イ) 特別講義「農大卒の社長に聞く農業経営について」 ・農業部：12/20（1、2年生）</p> <p>【成果】</p>	<p>ア 農業者による特別講義の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業者による特別講義は、社会人としての資質について学ぶ機会となっているので、引き続き、先進的な農業経営者からの講話や時代に沿ったテーマで講義を実施し、社会人としての資質について学ばせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 講座に参加した際に、自己紹介で自身のことをはっきり説明できることが重要である。より多くの講座に参加して、自信をもって自己PRできるようにするとよい。

<p>イ【充実】コミュニケーション能力向上のための教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有識者による講演を実施する。 農業部2回、園芸部2回（7月、2月） 【R4実績：農業部1回】 ・農産物直売活動における商品知識や接客〔挨拶、言葉遣い等〕について事前に学習するとともに、顧客との対面による接客を実施する。 農業部、園芸部で各1回/月以上 効果確認アンケートの実施 <p>ウ【継続】資格免許等の取得促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許取得の促進のため、学生への情報発信、助言・指導を行う。 延べ資格免許の取得数：15種類 【R4実績：15種類】 	<p>・アンケート調査では、講座の理解度は農業部・園芸部の平均約94%、講座への関心度は平均95%と高く、農業経営士等から話を聞くことで、社会人としての資質について学ぶことができた。</p> <p>イ コミュニケーション能力向上のための教育の実施</p> <p>【取組実績】</p> <p>有識者による講演を実施し、学生が企業等を訪問する際の、基本的なマナーやコミュニケーション能力・面接スキル等について学び、農産物直売活動を通じて実践した。また、講演等の学習効果を確認するため、学生の行動の変化について、2月上旬に教務職員にアンケートを実施した。</p> <p>(ア) 就職ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業部：6/22（2年生）、2/26（1年生） ・園芸部：7/5（2年生）、2/19（1年生） <p>(イ) 特別講義「いばらき 暮らしのセミナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業部：7/7（1，2年生） <p>(ウ) 農産物直売活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業部：選択授業の農産物販売実習として20回/年程度実施。イオン内原店販売会（10/15） ・園芸部：専攻実習の中で20回/年程度実施。イオンつくば店販売会（1/2）、坂東市商店街販売会（12/29、2/28） <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンスについては約94%の学生が「講義は役に立った」との回答があり、コミュニケーション能力や社会人としてのマナー等を身につけることができた。 ・販売実習を通じては、学生からは「コミュニケーション能力の重要性を意識した」という意見があり、販売実習後、積極性の向上や説明方法に工夫が感じられる学生もいて、コミュニケーション能力の向上に成果は見られた。 ・コミュニケーション能力の向上について、教務職員にアンケートを実施した結果、80%の学生に向上が感じられたとの回答があり、講義や実習の効果が確認できた。また、具体的な意見として、個々の講義はコミュニケーション能力の重要性を意識するきっかけであり、能力向上には専攻実習など継続した活動が重要である、などの意見も得られ、学生のコミュニケーション能力に対する教務職員の意識の向上につながった。 <p>ウ 資格免許等の取得促進</p> <p>【取組実績】</p> <p>教務職員からの情報提供のほか、農業者による特別講義等でも必要な資格についての助言・指導をいただくなど、免許取得の促進に努めた。</p> <p>【成果】</p> <p>資格取得の種類は14種類であった。技術系の資格は受験者数も多く、合格率も8割以上であり免許取得を促進させることができた。一方、実技よりも座学による勉強が中心となる資格は受験者数も少なく、合格率も低かった。農業簿記3級については資格取得者がいなかった。</p>	<p>イ コミュニケーション能力向上のための教育の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果などから、一定の効果は得られたが、さらにコミュニケーション能力を向上させるため、これまでの講義や販売学習による実践を継続して実施していくとともに、専攻実習などの活動の中で、コミュニケーション能力の向上を意識しながら、学習指導を行う。 <p>ウ 資格免許等の取得推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技よりも座学による勉強が中心となる資格については、受験者数が少ないうえ、合格率も低いいため、関連する授業の中で、具体的な事例を示しながら資格の必要性についての理解を促し、学習指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学校の内外での活動（校内直売所での接客、経営実践プロジェクトでの商談や販売など）を通じて、他者とのかかわる経験を積み重ねていく過程で、積極性が養われる。そのような機会を少しでも増やしていくとよい。
---	---	--	--

(2) 学生活動の充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）
<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動回数 (農業部・園芸部各々年12回) 【R4実績：各々年10回】 環境美化活動回数 (農業部・園芸部各々年4回) 【R4実績：各々年4回】 学生自治会活動回数 (農業部・園芸部各々年4回) 【R4実績：農業部：年4回、園芸部：年5回】 	A	<p>学生活動については、委員会活動は、農業部28回、園芸部14回、環境美化活動は農業部5回、園芸部4回、学生自治会活動も農業部6回、園芸部5回と、スケジュール調整など教務職員からの助言・指導もあり、達成目標以上の活動を実施することができ、学生の自主性や協調性を養う場である学生活動を充実させることができた。</p>	<p>学生自治会の委員会活動は、目標以上の回数を実施し、学生が役割を果たす機会を増やしている。このような機会での「小さな成功体験」を重ねることにより学生は成長する。達成度の評価基準と照らし、A評価は適当である。</p>

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】学生活動に関する情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業部・園芸部の職員が学生の活動状況を共有し、学生に対して共通認識をもって助言・指導ができるよう、生活指導委員会を開催する。 生活指導委員会開催回数：3回/年 【R4実績：1回/年】 <p>イ【継続】寮の生活環境改善への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員が、寮の巡回を月1～2回程度行い、寮に関する課題を確認しつつ、生活環境の改善について自治会が主体的に取り組めるよう、自治会長や関係委員会に助言・指導を行う。 助言・指導：随時 <p>ウ【継続】学生自治会活動への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が自主活動を計画・実施するうえで、コロナ禍以前に近い内容・規模で実施できるよう、助言・指導を行う。 主な活動予定 農業部：新入生歓迎会、体育祭（5月）、農大祭（10月）、2年生を送る会（2月） 園芸部：体育祭（5月）農大祭（10月）、地域美化活動（1月）、2年生を送る会（2月） 	<p>ア 学生活動に関する情報の共有</p> <p>【取組実績】 生活指導委員会を実施し、長岡キャンパス、岩井キャンパスにおける寮運営の在り方や、学生活動について情報交換を行った。 第1回：11/9、第2回：1/24、第3回：3月上旬</p> <p>【成果】 ・学生活動について適切に助言・指導ができるように情報の共有を行った。次年度に向けて、体育祭の実施方法などについて検討し、改善案を示した。</p> <p>イ 寮の生活環境改善への助言・指導</p> <p>【取組実績】 コロナ5類移行後の寮生活や、施設の整理整頓について指導した。また、新年度の始まりに際しては、2年生に、1年生のフォローをしっかりとるよう指導した。 (ア) 各委員会活動回数 ・農業部：執行委員会 17回、常任委員会 11回（体育5、美化5、給食1） ・園芸部：執行委員会 10回、常任委員会 4回（美化4） (イ) 環境美化活動回数 ・農業部：5回、園芸部：4回</p> <p>【成果】 ・教務職員の助言・指導により、執行委員会の活動も活発に行われ、自ら行動する姿勢がうかがえた。</p> <p>ウ 学生自治会活動への助言・指導</p> <p>【取組実績】 各活動に関しては、主に全体のスケジュール管理に関して助言、指導を行った。主な活動の回数は農業部：6回、園芸部：5回。 (ア) 新入生歓迎会 ・農業部では、各科・コースに分かれてバーベキュー等、コロナ過前に近い形で実施した。 (イ) 体育祭 ・今年度は農業部が運営主体となり、園芸部と連携を取りなが</p>	<p>ア 学生活動に関する情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生に対して適切に助言・指導が実施できるよう、引き続き、生活指導委員会を適切な時期に開催し、情報の共有を図る。 <p>イ 寮の生活環境改善への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 寮の生活環境改善について、自治会としての自主的な行動ができるように引き続き、助言・指導を行う。 常任委員会の中でほぼ活動が行われていない委員会があるので、委員会活動の活性化を促すように、助言・指導を行う。 <p>ウ 学生自治会活動への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 各行事について、学生からはより積極的に関わりたいという意見があり、学生活動については引き続き、学生がより主体的に活動に関われるよう、準備を早めにして、余裕をもって行動ができるように助言・指導を行う。 体育祭については、農業部と園芸部の学生数に差があり、対戦形式が難しくなっているため、競技の内容・方法について見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生自治会や体育祭、農大祭などにおいては、学生それぞれに役割を持たせることが重要である。学生は、与えられた役割を果たすことによって、自信が持てるようになる。 様々な活動を経験させて、「小さな成功体験」を重ねて、学生は成長できる。活動をサポートしてほしい。

	<p>ら長岡キャンパスを主な会場として実施した。(5/26)</p> <p>(ウ) 農大祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業部、園芸部とも、5月頃から月2回程度、定期的な実行委員会による打ち合わせを行い、農業部では10/21、園芸部では10/14に、一般の方も参加できる体制で開催した。 (参加人数：農業部：1,259人、園芸部：1,079人) <p>(エ) スポーツ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東関東スポーツ大会に代わる農大同士の交流機会について検討され、今年度は千葉農大の農大祭に、農業部、園芸部の自治会役員が参加した。(11/11) ・農業部では、学生同士の交流を図るため、スポーツ大会が実施された。(11/17) ・園芸部では、「歩く会」を実施し、環境美化活動としてコース途中のゴミ拾いを行った。(1/10) <p>(オ) 2年生を送る会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業部・園芸部ともに実施した。(2/2) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自治会活動については、東関東スポーツ大会に代わる東関東農大の交流会に参加するなど、目標としていた活動回数を上回り、学生の自主性や協調性を養う場である学生活動を充実させることができた。 		
--	---	--	--